

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	辻村, 江太郎
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1952
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.45, No.9 (1952. 9)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520901-0073">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19520901-0073</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

あつた」し、「頻りに通つた航路、恩恵を蒙つた航海の方法を彼等は近接する他の海國オランダ、スカンジナビヤ、ドイツに負つてゐた」のであつて、イタリー式のガリイ船やキアラック船は建造されなかつたし、イタリー製の地圖が使用されたといふ證據はなかつたのである。

以上に依つて知られる通りイタリー人は技術の如何なる進歩に對しても貢獻するところがなかつた。然らば一般に「英國におけるイタリー人の活躍の主たるもの」といはれて來た投資面に對する寄與を實際に如何に見るべきであらうか。

イタリー人が英國において扱つた資本が如何にして調達されたかといふに、「決して全部ではなくともあらましが、かなりの部分が又時には大部分が」イタリー人に屬し、イタリーから輸入された「資本であつて、假令「第十三・四世紀を通じてイタリーの大商館や大銀行は非常に活氣があつた、第十三世紀末にはリカルディやフレスコバルディ、第十四世紀初にはバルディやベルッソイ、第十四世紀末や第十五世紀にはメディチの各商會が英國の財政特に政府財政に深く喰込んでゐた、バルディやベルッソイの各商館に對しエドワード三世の負つた借金が第十四世紀の最初の二十五年間においてはこの英國王の毎年の戦費の最高に等しい二十五萬鎊を屢々遙かに凌駕した」場合にあつても、財源はイタリー人がこの國において受取つた富裕な人々からの預金でも又イタリー人がこの國において徴収を委任されてゐた教皇税の一部でもなく、正にイタリー本國にあつたの

ではあるが、然し投資に關連して「層重要な問題は寧ろ膨大なこの資本が果して實際に生産面に振向けられてゐたかどうかといふ點であらう。尤も現實においては「貸付の大部分が國王の戦費を調達するために使用され、かくして國王に前貸された基金の若干は海外における國王の官吏、軍の會計係やフランスにゐる守備隊に直接支拂はれた」のであつて、「これ等の前貸と比較すれば、國王の臣下に對するイタリー人の貸付は非常に少なかつた」し、稀に「第十四・五世紀を通じて我々は貴族や修道院に對し金錢を貸してゐるイタリー人を見出す」が、假令「イタリー人の貸付が羊毛の將來の生長を見込んだ前拂の形を採つた」り、又「前拂の若干が羊群の増加や牧場の擴張に投下された」りしたとしても、とにかく「イタリー人の貸付に依る羊毛生産における大發展に關しては何の證據も何の事實もなかつた」から、従つて「若干のイタリー商人の資本が英國における生産的投資にその道を見出した」場合にあつても「全體としてその活動は餘りにも微弱であり又餘りにも不規則であつて經濟發展に對しかなりの變化を及ぼすことが出来なかつた」と見るべきであらう。

技術面に對すると同様に、投資面におけるイタリー人の貢獻に關しても積極的な意義は附し難く、従つてイタリー人が英國中世の經濟發展において演じた役割は通説に反し「全く二次的でしかも餘り重要ではなくなる」といはざるを得ないのである。(渡邊國廣)

編集後記

獨立して最初の總選舉が行われようとしている。占領下では何處までが日本の生地の姿か判定が困難であつたけれども、今度はそれが隠しようもなくはつきりと現われるわけである。終戦直後、四等國だつたはずの日本が獨立直後急に東亞の指導者に成りあがつたり、神の如く寛容だつたワシントン政府が露骨な帝國主義者になつたり、新聞紙上の評價は變轉極まりないけれど、我國の眞の状態が如何なるものであるか一人々々の脳裡には可成はつきりした像が浮び上つてゐることであらう。政治的な問題解決の責任は誰もがその一端を擔ねねばならぬものであるが、その一方我々は經濟學研究という職業を通じて國情を改善する責任を有する。國情に即した政策への進言を可能ならしめるような理論の樹立もその一つであり、また現在ハーバート大學、シカゴ大學あるいはオスロ經濟研究所が世界の學界に果してゐる役割を本塾經濟學部も果しうするようにすることがまた一つである。近時その起源が何れであるにせよ愛國主義的科學の必要が叫ばれはじめたことは、再び高天ヶ原經濟學の出現を促さぬでもないとの不安を感じさせる。我々は祖國愛、民族主義を絶叫する科學が如何に派手なものであるにせよ、社會生活を眞に改善する科學ではないことを再び強く自らに言い聽かせて、恐れることなく地味な研究に沈潜する勇氣を蓄えぬばならない。(辻村江太郎)

昭和二十七年八月二十五日印刷  
 昭和二十七年九月一日發行

第四十五卷 定價 七拾圓  
 第九號 送料 四圓

編輯者 高村象平  
 發行所 東京都港區芝三田慶大經濟學部内  
 印刷所 圖書印刷株式會社 川口芳太郎

豫約購讀料  
 一年分 金八四〇圓(送料共)  
 半ケ年分 金四二〇圓

發行所 東京都港區芝三田二丁目  
 慶應義塾大學經濟學部研究室内  
 慶應義塾經濟學會